

2011年度

科目名	考古学A				
担当教員	栗田 薫				
配当	文 2・教育2・人間2		コード	45013	
開期	前期	講時	木曜日5限	単位数	2
授業テーマ	日本古代瓦の技術的検討				
目的と概要	考古学とはどういう科学かを説明することに主目的をおく。古代寺院の屋根にのった瓦資料の検討から、お堂が順に改築された真実(伽藍配置の変遷)を解明する。その研究法と、実際の作業を紹介する。				
成績評価法	授業での理解度40%、期末試験の成績60%、授業での理解度は授業終了時に毎回提出してもらう小レポートで評価します。期末試験については記述の論理性、ならびに考古学の知識の深さが評価されます。				
テキスト	使用しない。授業中にプリントを配布する。				
参考書	山中一郎(編)『新堂廃寺・オガンジ池瓦窯出土瓦の研究』(京都大学総合博物館刊行) 山中一郎・栗田薫『瓦研究の新方法』(京都大学総合博物館刊行) 栗田薫(編)『新堂廃寺跡・オガンジ池瓦窯跡・お亀石古墳』(富田林市教育委員会刊行)				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	特別な知識は必要としません。知識を覚えるのではなく、推理が成立する根拠を求める思考が必要です。考古学に興味をもつことが大切です。考古資料をみるために博物館などに足を運びましょう。				
講義計画					
第1回	ガイダンス(考古学とはどんな科学か)				
第2回	考古学研究の目的と方法ー考古学・歴史学・民俗学ー				
第3回	型式学				
第4回	型式学の限界と技術学の展望				
第5回	動作連鎖の概念と技術学				
第6回	大阪府富田林市所在の新堂廃寺の紹介				
第7回	新堂廃寺出土瓦の型式学的研究				
第8回	瓦の種類と本瓦葺き				
第9回	桶巻き作りと型木作り				
第10回	瓦造りと技術痕跡				
第11回	新堂廃寺出土瓦の技術的研究(1)ー飛鳥期				
第12回	新堂廃寺出土瓦の技術的研究(2)ー白鳳期 (山田寺式期・川原寺式期)				
第13回	新堂廃寺出土瓦の技術的研究(3)ー天平期				
第14回	新堂廃寺の発掘調査と伽藍配置の復元				
第15回	総括				